

令和８年度 第１回大河原町まち・ひと・しごと創生会議 会議録

１．開催日時 令和８年７月１０日（金） 午後１時３０分～午後３時３０分

２．開催場所 大河原町役場 第１会議室

３．出席者

No.	部門	所属等	職	氏名	出欠
１	商工業団体	大河原町商工会	会長	桜井 俊寛	欠
２	産業界	株式会社ヒルズ	代表取締役	佐藤 克美	出
３	教育文化団体	大河原町文化財保護委員会	委員長	森 貢喜	欠
４	子育て支援団体	アートのたからばこ	代表	押野 知子	欠
５	民生委員児童委員	民生委員・児童委員協議会	主任児童委員	竹川 貴子	出
６	労働団体	連合宮城・仙南地域協議会	事務局長	笠松 利信	出
７	金融機関	株式会社七十七銀行 大河原支店	支店長	佐々木 幸男	出
８	行政機関	大河原地方振興事務所	地方振興部長	佐々木 卓実	出
９	士業機関	加藤義和土地家屋調査士事務所仙南不動産鑑定	代表	加藤 義和	欠
１０	まちづくりアドバイザー	仙台大学	准教授 国際交流センター長	朴澤 憲治	欠
１１	ＩＣＴアドバイザー	ジェットインターネット株式会社	代表取締役	晋山 孝善	欠
１２	公募住民		公募委員	佐柄 ゆかり	出
１３	公募住民		公募委員	我妻 克己	出

４．事務局 大河原町政策企画課 吉野課長、瀬戸副参事兼課長補佐、高橋係長

5. 町長あいさつ

皆さんこんにちは、各界を代表するような方々に委員としてご出席いただきまして、令和8年度第1回大河原まち・ひと・しごと創生会議を開催することができますこと大変ありがたく受け止めているところでございます。皆様方には、引き続き活発なご意見を賜りますようお願いを申し上げる次第でございます。

さて、地方創生が叫ばれて、昨年で10年となりました。当時は石破内閣政権で、地方創生2.0は新たな取り組みとしてスタートしたところでございます。この10年の振り返りでは、いくつかの成功事例はあったところですが、人口減少あるいは東京一極集中の流れを変えるには至っていないという総括でございました。そして地方創生が地方のみの活性化策であるという域を出るまでには至らず、地方の格差の拡大がとりわけ強く懸念されたというふうに私も受けとめているところでございます。

決して、地方創生の理念や基本的な考え方に異論があるわけではありませんが、地方あつての国とかあるいは地方こそ成長の主役と叫んでも、町で暮らす人々は、果たしてこういった地方のありように共感を覚えているのかということを考えてしまいます。このギャップを埋めることなしに、真の地方からの国作りは実現しないのではないかと考えているところでございます。私今、宮城県町村会の会長を務めさせていただいております、頻繁に政務活動に国に対して県に対して進めているところです。こういったことは私にとっては何か命題のようなものになってまして常に頭を悩ませているところでございます。

また一方で、地方においても、市町村間の格差っていうのは明らかに広がっていると受け止めております。果たしてうちの町だけがよければいい、といったことが通用するような状況であるはずもないと考えております。

本町はやはり様々な面において恵まれていると認識しております。本町の持つ特徴である、中心性、拠点性、利便性、こういったことが地域全体の活性化に繋がるようにぜひ皆さんには、広域的な視点での将来の地域作りを見据えた、そういったご意見を賜りたいと切に願っているところでございます。本日の会議が実り多きものになりますよう心から期待申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

6. 会議

- (1) 第3期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について
- (2) その他

7. 会議資料

資料1：第3期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和7年度実施内容及び令和8年度実施予定

8. 会議

(1) 第3期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価等について

高橋係長より説明を行った。以下質疑応答。

発言者	内容（要約）
竹川副会長	ただいまの事務局からの説明を受けて、令和7年度の事業実施、8年度予定について何かご意見ご質問等ありますでしょうか。
我妻委員	資料1-2の5ページ空き家対策です、令和8年度適正管理について周知徹底を図ると説明を受けましたが、適正管理とは具体的にどのようなことですか。
吉野課長	空き家所有者に対して固定資産税の通知等に、空き家の除去するときにはこういう制度あります等、案内を同封するなど、毎年継続して取り組んでいます。あわせて、庁内各課で連携をとりまして3班にわかれて、毎年同じ空き家と思われるところを巡回して、それぞれ状況を確認しながら、その近所からこういった管理されてるか等の聞き取りを個別に行っています。
我妻委員	管理するのはPDCA、これを回すことによって管理っていうんですね。空き家管理計画みたいなものは策定されているのですか。
吉野課長	他の市町村であると、かなり空き家の数が増えているという状況がありますが、大河原ですと比較的空き家の市場の取引が活発に行われていて、空き家になっても買い手がつくということで、空き家の数が爆発的に増えず、むしろ少しずつ減っているような状況もありますので今のところは行政として計画は策定していない状況です。
我妻委員	適正管理について周知徹底を図るというのは、所有者の方に適正な管理をお願いしますということですね、わかりました。
竹川副会長	他に意見はありますでしょうか。
佐柄委員	令和7年から11年までの5年間計画ということで、ある程度11年までの間に目標数値に近づいていくというふうに想定はできるんですけど、ものによってはほぼ達成しているものと、達成できるのかなっていうぐらいの開きが出てきていると思うんですが、既に達成しているものは、例えば5年間の間に、2年目3年目で見直しがあって、目標数値の変更があったりとか、そういうことはあり得るのでしょうか。
吉野課長	先だって今日の会議開く前に、役場庁舎内部での創生本部で同じように報告させていただきまして、やはり進捗にかなり差があるというのは担当課長の方でも認識しております。 既に達成しているものについて手を緩めず引き続き推進するような格好でございますけれども、見直しをしてはどうかという意見も出されましたので、中間の9年度ぐらいで改めてその目標設定を検討しても

	いいと事務局では考えております。
竹川副会長	皆様から他にありますでしょうか。
佐柄委員	何個かありまして一つが資料 1-3 の基本目標 3 のところで Well-being なまちづくりと掲げていただいているのですが、目標指標のところとかに何が Well-being になっているのかっていう指標を入れていただくといいんじゃないかなと。住民に何かしらアンケートを取られてると思うんですけど、何かその中に Well-being 指標を入れるとより達成度が可視化されやすいのかなと。
吉野課長	大変素晴らしい意見で、町では 3 年に 1 回、住民満足度調査をやっています。前回昨年度にやったんですけど、確かにこちらの指標を測るような指標はなかったので、1 回ぜひ入れたいと思います。住民満足度調査というの、紙ベースだと予算の制限があって、何年かに 1 回しかできなかったのですが、デジタル化が進んで、LINE や PC のシステムがあるので、そういったところを使ってもっと細かい期間でやってもいいのかなと考えてました。わが町は今のところ Well-being をかなり前面に出して頑張っているところですので、ぜひそういうところが測れるような工夫をしてみたいと思います。
佐柄委員	また指標の話ですみませんが、資料 1-2 の 5 ページの地域医療体制の充実について、分娩件数とかを指標に入れて、今年が多分始まりだと思うので令和 11 年までに何件ぐらいを目指していくかみたいなのがあるとより達成度がわかりやすいのかなと思っておりました。 個人的にはすごく大河原で分娩再開は朗報だと思って。私も 1 人娘がいるんですけど、当時仙南で実家に戻ったときに、やっぱり近場になかったんですよ。これは少子化対策というか、人口減少対策になるのではないかと思います。
吉野課長	ありがとうございます実はこれ非常に皆さんに PR したいところです。分娩取り扱いが復活するのはかなり全国的にも稀なケースでして、この取り組みもう 6、7、8 年ぐらいとかなりかけてます。 私はここに来る前に中核病院に派遣で行ってたんですけどもその頃から各方面に働きかけをやっておりまして、令和 2 年 10 月ぐらいからずっとやってるんですけど、その当時は大学はかなり医局人事で大学側での産科医師の数も厳しくなってきたということで、各地域から派遣した職員を大病院に集めて、そこで集中的にやりましょうっていう取り組みがなされてたんです。 そういった中で分娩を各地域で要望してたんですが、仙南地域が達成できたということで、これは本当に素晴らしいと考えてます。 分娩再開することによって、若い方が子供をこの地域で育てようとな

	ってくれると、それが地域コミュニティの参加の第一歩になるんだと思うんですね。そういった意味で分娩再開は大切な取り組みだと町長も考えておられて、我々も意志を継いでですね一生懸命頑張ってきたところですので、非常にこれは誇らしいと考えているところでございます。 分娩件数につきましては、やはり中核病院側での体制もありますので、できれば多い方がいいかと思いますが、その目標とする件数につきましては相談して、載せられればと思います。
佐柄委員	ありがとうございます。さらにちょっと理想のところで意見を申し上げますと、分娩がこの仙南地域で唯一の拠点になったのがすごく大きなことだと思う。しかも総合病院であったことはすごく大きなことだと思ってさらにPRしてくとしたら、例えばですけど無痛分娩の機能を入れていく。それってすごく大変なことだと思う、麻酔科医の確保とか、24時間体制の何かとか、絶対大変なことだと思うのですが実現するのは難しいと思うんですけど、宮城県内に無痛分娩ができる院が、本当6、7件ぐらいしかないの、町の施策として無痛分娩を推進する、そういう目標を掲げていただくだけでも子育て世帯に対して、すごく子育てや出産に対して考えてくれてる町としてPRになる。それを出すところにしっかり出していくっていうところが大事だと思うんですけど、もし検討の余地がありそうでしたらご検討いただけないかと思いました。
吉野課長	ご存知の通り、中核病院の運営については1市3町の枠組みでやっているところでございます。 大河原町もそうですが、他の市町もやっぱり出生数が少ない、やっぱり人口が非常に減っているっていう現実があつてですね、無痛分娩というのは一つの良い取り組みになろうかと思います。 ただやはり委員おっしゃった通り麻酔科医の確保であるとか、それから看護体制であるとか、そういったところも必要になりますが、首長と我々の会議が年7、8回ぐらいあるんですけども、運営委員会とか、協議会があるので、そういった場でですね、これを機にこういったことにもみんなで取り組みませんかということで提案したいと思います。
佐柄委員	ありがとうございます。すいません、もう1個だけ。 また指標関連で恐縮なんですけど出生数の指標書いてたところがあつて、基本目標3の5ページ。縦型の資料の方だと令和6年は116人、令和7年は105人と減っていつてところは少し課題だなと、拝見して思っておられて、最初の冒頭の部分でも町長が少子化対策とか人

	口のところを課題に掲げてらっしゃったところもありましたので、ここは課題なのじゃないかなと思っていますが、この達成するためにやるべきことは、先ほどの分娩件数の分娩施設の分析の学習とかも大きくここに貢献できるだろうと思いますが、ここで書いていただいてる啓発チラシの事業所の配布、全庁の配布とか、あと研修会とかだと思うんですけども、何か他にこの辺を達成できそうな取組ってあったりするんでしょうか。
吉野課長	この分娩数、出生数の増というのは出生だけにクローズアップするのではなく、将来にわたってどういう子育てができるのかが結果的にこの出生数に返ってくるのかなと思います。 昨年から全国に先駆けて大河原町も小学生中学生給食費無償化やりますと、取り組みを始めていました。あわせて先ほどもあったんですけども、7年度から保育環境もしっかり小学校前の段階でやらずにちやいけないうことで、町立の保育所は1ヶ所だけになりますけども、私立の保育所を見てみますと、年度始まって4月5月6月7月までが、一番育児休暇産後休暇とか取られてて、年度途中からお子さんを預けるということが多い、ただその段階まで保育士を確保するのが大変だということなので受け入れの調整が難しかったんですよ。そういった私立保育所の実情を聞きまして、ならば確保しなければならない、苦しい期間は町で持ちましょうということでそこで人を確保してもらって、年間を通じてお子さんを預けやすいような環境を整えることを少しずつ始めています。 各年代にそれぞれ切れ目なくやっていくことが将来的にこの出生数の回復に繋がってくればいいのかなと思います。あと他の項目で教育のところですけども、学校のハード部分、学校の大規模改修も大体今年度で一通り終わって、少し綺麗になったりですね、あとはかなり教育費にお金をかけてですね、大河原町の小学生の成績が良くなっているということもあります。できればそういったところを皆さんにもっと知っていただく努力を我々ももっと必要なのかなと思いますので、こういったところを将来的に子育てまで含めたところでPRしていきたいなと考えています。
佐柄委員	PRいろいろやれる方法はあると思うんですけど、私はUターン組ではあるんですけど、離れてて知らなかったもので、大河原小学校がこんなにすごく成績も上がってる、IT教育開発もすごい力を見せて、学力が上がってることも。あんまり知る機会がないので、子育て層なんか目に触れるプロモーションみたいなものを取り組んでいけると、低コストで効果があるもの、例えばインスタグラムで広告出すだ

	けでも。私も実感値ですみませんが、身近なママ友全員インスタで情報収集してるので、そこに例えば少しずつ広告とか流してあげるとか、そういったPRしても、もしかしたらいいかも知れないですね。
吉野課長	実は町でもインスタとかいろいろやってるんですけども、活用がうまくできてない現状と思っています。
佐柄委員	私もいろいろ拝見して、何かいろいろできるかなと。例えばサイズが縦サイズなので、そこに合わせてあげるだけでも見た目が整っていいかもしれませんね。あとタイトルを表紙に入れるといいのかなと。
吉野課長	貴重なご意見ありがとうございます。担当に伝えます。
佐柄委員	会社でインスタの広告運営とかしていて、私の場合は採用のイベントとかでインスタの広告を流すんですけど低予算で1日2000円リースで数千人とか数万人ぐらいまで露出していくことができたりするんで、もしそっちから積極的に露出したいものがあたらちょっと触れられてもいいかもしれないなと思います。 すいません、最後もう1件いいですか。 同じ資料の一目千本桜、令和6年が26万人桜まつりに入って、令和7年が22万人って4万人ぐらい減ってしまっているところも結構なんか、当然その年の桜の開花状況とか、開催期間とかで大きく変わってくるのは前提としてあるとは思いますが、何かそこへの対策として式典以外に何か対策はされるんですか。
吉野課長	おっしゃる通りどうしても開花の時期等に左右されてしまうのですが、催し物とか開花期間に関わらずいろいろやれる取り組みはあると思いますので、事業課ではいろいろ考えているようでございますが、やはり現状で見ますとお隣の町と似たようなことをやってる。なので、できれば共同でやれたらいいのにと。私が財政担当しているので、そういったことで経費の効率化、それから生きたお金の使い方というのですかね、もっと面を取ってPRするようなことできないのかと提案はしてるんですけども、なかなかそれぞれの町の思いがあって難しいということは伺っています。 実はうちではふるさと納税も担当してるんですけども、ふるさと納税に関しても、一目千本桜だけあって全国にすごくアピール効果の高いコンテンツなので、一緒に組んでやれたらいいなと思うんですが、それぞれ思いがあってなかなか進まない。一緒にやればいいんですが、そこは引き続き我々の方からも働きかけたいと思います。
竹川副会長	あちらのほうに声掛けしたほうがいいんですかね。
吉野課長	いろんな切り口があると思うんですけど、町長の挨拶にもありましたように、わが町だけの政策じゃなくてもっと地域全体がよくなるよう

	な、例えば仙南地域全体としてやれるようなことがあれば、そういった考え方で今後やらないと生き残れないので、そこはしっかりと協力していかなくちゃいけないと思います。おそらくどこの市町村も同じなのでまずは具体的にお話しましょうっていうのがいいのかなと、私個人的には思ってます。
佐柄委員	すごい向こうは力入れてますよね。この間観音様の袂まで行ってきたんですが、風鈴を用意してたり、ビニール傘をたくさん並べてちょっとフォトジェニックな感じにしたりとか、すごい力を入れてる。
吉野課長	桜は共通の財産であるという意識はあると思うんですよね。それが発展的にできればいいかなと。
竹川副会長	他にありますでしょうか。
佐々木幸男委員	資料 1-3 の 4 ページの結婚促進についてお尋ねしたいんですけども昨年 2 件イベント開催したとありますが、カップル成立の件数が抜けてるんですけど、カップル成立っていうのはお付き合いするまでのことなのか、結婚まで追いかけるものなのか。 七十七銀行も関連会社で結婚事業のお手伝いをしておりますが、6 月に大河原町にお住まいの方からお 2 人加入されました。なので、結婚したいと思ってる方は確実にいらっしゃるので支援をしていきたい。また、下に書いてある町単独でふるさと納税移住イベントを大阪府でと、これどういうものなのかをちょっと教えていただきたいと思います。
高橋係長	件数については下の目標指標にも載せておりましたが、令和 7 年で 4 件となります。抜けており申し訳ございませんでした。
佐々木幸男委員	その 4 件はその後どうなったかはわかりますか。
吉野課長	イベントでのカップル成立まではお手伝いしておりますが、その先はプライベートなことにもなるものですので把握までは。
佐々木幸雄委員	カップル成立後の手取り足取りが大事みたいですがね。
我妻委員	そこまでは入れないのしょうがないよね。
佐柄委員	そこは確かに私もちょっと思っていたところもあって、過激派の意見を出してもいいですか。 婚活からもう手を引いてしまって、結婚後のいい生活が送れるといったことの PR に全振りしたほうがいいのかと。
佐々木幸雄委員	婚活イベントも人を集めるのが大変なんですよね。なのであれば、それでいいのかも说不定い。

佐柄委員	その分をそれこそインスタの広告に充てて、例えば大河原で暮らしてみたい、みたいなプロモーションをかけたほうが増えそうかなと。
瀬戸副参事	家を大河原で建てようとかですかね。
佐柄委員	そうですね、土地代も仙台程高くないけど、仙台まで一本で行けますし、そういう何か生活の便利なところを押してみてもいいのかなと。過激派な意見ですみませんが。
吉野課長	行政側は保守的になりがちなので非常にありがたい意見です。あとはイベントの中身ですが、移住定住のイベントは県が主催して県内ほぼ全市町集まって、東京有楽町の東京交通会館でやっていて例年参加させてもらってたんですが、今回ふるさと納税と移住定住、非常に共通するところがあるんですね。大河原の魅力を知ってほしいというところがあって、ふるさと納税も移住定住も東京、関東圏ではいろいろイベントやってたんですが、西日本でのアピールは今までしていなかった。なので、今回ふるさと納税と移住定住と一緒に大阪の梅田のほうでやろうかということで、まずは大河原町を知ってもらうためにふるさと納税を入り口として、移住定住につなげる抱き合わせのイベントを今年初めて行うものになります。
佐々木幸雄委員	ぜひもち豚を押していただいて。
佐藤委員	いろいろと紹介します。
吉野課長	実はふるさと納税、前まではポータルサイトでの募集しかやってなかったんですけど、去年からリアルイベントに参加するようになりまして、去年ですと東京ビッグサイトと、横浜でのイベントにそれぞれ参加して、ふるさと納税の紹介と大河原町の紹介をやってきた。今年は幕張もプラスして回数を増やしてPRしてくるんですけども、ヒルズさんのご協力もいただきながら、社員の方一緒に行っていただいてアピールしようかなと思います。ご存知の通り大河原町、ヒルズさんのもち豚の他にも、菓匠三全菰の月がありまして菓匠三全さんも今年はリアルイベントに参加いただけるということで、我々よりも当然イベントのプロですので、もっとアピールできるんじゃないかなと考えてますので楽しみにしているところです。
佐々木幸雄委員	はい、ありがとうございます。
竹川副会長	ほかに皆様から何かありますか。
笠松委員	基本目標2の3ページの交通安全啓発の推進と、②の交通安全施設の充実で、小学校から例えば簡易的に通う方たちの通学路の歩道とか、そういうのも歩道がないところとかあるんですかね。それも拡張して

	やったのかなとは思いますが、うん、ですけども。
吉野課長	こちらの交通安全施設の充実ということで、通学路安全点検会議を開き、教育委員会が主管課になって、地域の方とかに参加いただいて、年に1回全体的に通学路を点検し、危険箇所の改修とかは一定程度予算かけて毎年やっているところなんです。ただ全面全てのところというのは難しいので、交通量が多いところを優先的にやるとか、予算的に負担かからないところ、そういったところを優先的にやるという状況で、少しずつですが進んでいるというような状況です。
笠松委員	田舎のほうですと、田んぼとかそういったところって事故が多いじゃないですか。バスもAI搭載されて、赤信号にならないようなシステムになってるとここで以前話したと思うんですね。いまで言うと、286号線の根岸町のところ、朝7時から8時40分ぐらいで渋滞するんですけど、東京のあるバス会社さんが、フロントガラスの前にシステムをつけて電波を飛ばすと信号が青になって止まらないから、バスが時間通りに来るようになっている。だから東京はバスが5分おきとか7分おきの過密ダイヤになっているにも関わらず、スムーズにバスが等間隔で来るので、そんなに人件費もいらなくて大丈夫なシステムがあるんです。仙台にもそれがあって、いずれ地域に多分来ると思うんですけど、歩道がないと人が歩いていても感知できないらしいんです。聞いた話ですが、歩道があると歩道の高さ分で車道をちゃんと認識するらしいんですけど、例えば子供、私も子供3人でちっちゃい子いるんですけど、例えばそれを認知できない場合ぶつかってしまう。それは危ないなということで、私も今PTAの役員として歩道を作った方がいいですよ、いずれバスがそういうシステムが入ってくるのであれば、一般車もきっとそういうふうな形になっていくという話しています。ハンドルを握って運転するのが、いずれは何でハンドルを握って運転したのっていう時代になってくる。要はAIが判断した方が安全で、50、47m だか37m を忘れましたけどそのくらいの間隔があると交通渋滞が起きないんですよ。でも車の運転手はやっぱり詰めてしまうので、渋滞が起きてしまう。それをセンサーが反応して、前の車と後ろの車で追跡モードで走るらしいんですよ。いずれバスもそうなる。多分一般車もそうなる。でも、歩道整備されない場合、子供をひいてしまったら、このせっかくの交通安全対策がもったいないなと思ったので。多分これは交通渋滞の多いところはやってると思うんですけどうちの方田舎なもんで、山の方なんですけど街灯もないんですよ。なので4時半頃子供たちが帰ってくるとき真っ暗になっちゃうんですよ。この前はイノシシの檻にクマがかかったっていうことで

	イノシシも出ましたし、やっぱ山の方なんで、そこに街灯がない。歩道がない。危ないなと思ってずっと強くは言ってるんですけど。大河原町は普段もいろんなことができてるのすごいなって思って。しかも店も多い。件数的には多分多いと思うんで事故とかも。だから、せめてそういうのをなくすために、車関係もコンピュータ化してくるので、行動とか街灯とかそういうのを認識されるようにあった方がいいなと思ってるの意見でございました。
吉野課長	ありがとうございます。我々もその視点なかったので、事業課にも伝えたいと思います。
竹川副会長	点検に関しては私もメンバーなんですけどね、1回合同点検がありまして県の土木関係の方、町も各課と交通指導隊の方と民生委員、各学校の教頭先生と一緒に歩いて各箇所、危険と思われる場所を挙げて、その場所を車で回って1日かけて点検して、警察の方も来ていただいて、それでやっとなんか徐々にここの横断歩道をなくそうとか、ここだったら信号近いから、もう一個信号つけなくていいとかしていました。あとは民生委員が毎年通学路公園点検というものをやってまして何班かにわかれて、町内の公園を全部点検、遊具の点検をして、通学路で危ないと思われるところを実際に行って写真を撮って、それを取りまとめて、民生委員の協会として町の方に具申している。それで少しずつ直されてきているところもあるので、少しずつではありますけれども、通学路とかは良くなっておりますので、そこを報告させていただきたいと思います。 後ほかに何かありますか。
我妻委員	一つ教えていただきたい。私3、4年前にですね、大河原小学校の学力全国2、3位と聞いたんですが、中学校に入るとワースト3位か4位って話聞いたんですが本当なんですかね。 ただ友達から聞いた話と、そういったものの記事を新聞で読んだような記憶あるんですけども、なぜそのような差が出るのか、そういったことは本当にあるんでしょうか。
吉野課長	小学校の学力が高いのは全国で何番かちょっとわかりませんが、県内ではもうトップレベルというのは間違いないそうです。 中学校は全国的位置づけはわからないけどやはり平均まで届かないという現実があって、そのギャップがなぜか教育委員会でもすごく悩んでるところなんですよね。中1ギャップは多分大河原だけではなくて全国にあるんですけども大河原はちょっとそのギャップが大きいんですよね。
我妻委員	学力が高いのは暗唱させていることから来ていると新聞では載ってま

	すが。
吉野課長	ありますね、暗唱読本。あれは非常にいいと聞いております。なので、小学生は間違いなくトップレベルにあると思います。
竹川副会長	教育委員会でも頭抱えていると思います。私は普段小学校で支援員として働いていますので、何とも言えないところですけども。
吉野課長	特徴的なところが見当たらない、原因がわからないんですよ。
竹川副会長	そうなんです、部活にうつつを抜かすのか、それともいろんな学校の人たちと交わって、やらなくてもいいやと思ってしまうのか。
我妻委員	他県から調査に来られたことがありますよね、小学校で。
竹川副会長	ありますね、大河原小学校に関しては研究をしております。最初は文科省指定で学力研究を実施し、それを毎年続けて今でも研究発表を毎年1回1月に授業公開してるんですね。それに向けて先生方も授業の研究を重ねて毎年授業公開していただいているんですけども、そこで大河原小学校は先生の質を上げようということで、宮教の先生を呼んだり、山形とかいろいろなところから先生が視察に来たりとかします。 あと、今教育現場を見るととにかく人手不足、教員が足りない。私が働いている小学校でも産休代替の講師が見つからず結局は欠員のまま1年過ごしている状態。産休代替半年かけても講師が見つからない、今そういう状況なんですね。なので教育現場はとにかく人手不足で大変。あとは団塊の世代が抜けて、中堅の先生方が手薄になってる。昔は、学年主任の先生っていうと40代50代ぐらいの先生方のイメージですが、早いと20代後半で学年主任を任されるくらい中堅の先生たちが足りていない。そういう状況で、なかなか先生方も大変だということを見ています。 暗い話ではないんですけども、発達系のお子さんが非常に増えているというのは、教育現場で思います。それで、こども家庭センターができたじゃないですか。3歳半健診とか5歳とかそのぐらいの健診で、発達系の遅れがあるとか入学時に学校まで情報が来ないものかなと私は現場にいて思うんですね。というのも、どう見てもADHDとか自閉系の傾向がある、でも親御さんが認めないとそこから先に進まなかったりするんですね。普通のクラスにいては、勉強も苦しい、生活も苦しいお子さんなんですけど、保護者が一歩踏み出さなければその先に進まない。やっと外部機関と繋がりましょう、発達支援センターと繋がりましょう、保健師さんとの話し合いをしても、そこから発達系の指導の先生に診てもらおうとなると1回目の診療を受けるまでに3ヶ月待ちとかになるんですよ。なのでそうするとあっという間に1年が過ぎてしまうんですね。まずは学校で保護者に連絡して来てもらいま

	す、面談します、ケース会議を学校でします、そこから予約をしてもらうと、2ヶ月後3ヶ月後じゃないと入れない。そこから少しして結果が来ました、どうしようって話し合っているうちに、あっという間に1年なんか過ぎてしまうんです。その1年分のその子の伸びしろを伸ばしてあげられないのは心苦しく思う。1対1とか2対1でやったらすごく伸びる、できる子がいるんですけど、普通のクラスにいると埋もれてしまうというか、そこまで丁寧には手がかけられない。そういうのが今、教育現場では起きてる。大河原町ではすごく親身に、教育支援員の人員の予算を取って配置はしてくれてるんですが、それでも手が足りない。なのできめ細かい教育をやりたいと思うんですけど、先生方も疲弊しているし、何とか子供たちの将来のためにも教育現場を少しでも明るくしていかないと、学力の維持にしてもブランド化にするにしてもだんだん苦しくなってくるんじゃないかなと現場にいてすごく感じています。 大河原町は予算割いてくれますし、ありがたいと思うんですけど、実際はそのお子さんの支援となると行き届いていない、100パーセントは難しいなとは思っています。 なのでこども家庭センターと教育総務課と連携して発達支援とか、虐待とかを見つけていく。本当に一体化して、縦も横も繋がっていかないと苦しいかなと私は最近、思っております。
吉野課長	予算を通して見ると、おっしゃったように教員補助者今年も確か2人ぐらい増員して予算とっているんですけども、全然それでも足りないんだっていう話は聞いてます。 私は30年前から予算に関わっているんですけど教育委員会、特に学校の予算要求、教育の質が変わったというか、昔はどうしても施設の充実をメインに予算要求が多かったのが、今は子供たちの支援のための予算要求が非常に多くなっている、質の変化をすごく感じる場所があります。先生たちも発達障害のある子供たちに対して全ての知識を持ってるわけじゃないので、支援システムがあるらしいんですね。子供の状況を入れるとAI等でいろいろと支援策を提案してくれるシステムですけども、そういったものも入れたいとの話もあり、教育現場ではかなり質が変わってるなと感じているところです。
竹川副会長	支援の必要な子は1人1人つかないといけない、飛び出していつちゃったり、情緒系の子なんかは特に全然話せない子も何人かいたりとか、すぐ喧嘩しちゃって手が出るとか、本当に手、目が離せない、そうするとどうしても1人欲しい。 どこかの特別支援学校で授業中にトイレに行き勝手に非常口のドアか

	ら出て行方不明になって、滝つぼで見つかったなんてことがニュースでありましたけど、他人事じゃない。授業中トイレ行きたいって言えば1人で行ってすぐ帰ってくるんだよと送り出すので、あれを見たときに支援学校ということもありますが、ただ鍵を開けて出ていってしまったところが、身につまされるところがあつて。やはり人だなと、人の目が大事だとすごく今思っているところです。
吉野課長	あともう一つ、生まれてくる子供たちが減って児童生徒数も減っているので本来であれば空き教室が出るはずなんです。でも実は逆にそこがどんどん埋まってるのは、支援学級数がすごい勢いで増えている。
竹川副会長	私が大河原小学校勤めてたときは、3クラス4だったのが今8クラスになってる。
吉野課長	空き教室を使って放課後児童クラブやってたんですけど、どうしても支援の子が増えたので、教室を返して改修する費用とかこの前の補正予算であったんですけど、本当に年度の途中で補正やらないと間に合わないぐらい状況が進んできている。
竹川副会長	結局不登校の子供たちが入れる教室を作って、またそこで教室を一つ二つ使う、教室に入れない子の居場所として。なので、教室が空くかと言われるとそうでもないんですよ。
佐柄委員	小学校へ発達の情報共有化されてないということです。
竹川副会長	幼・保・小の連絡会はあるんです。それで入学するとき、小学校の先生と幼稚園、保育所の先生とで引き継ぎみたいな感じでこのお子さんはこういう感じです、と全部引き継ぎはするけれど、健診でそういう疑いがあるのかっていう情報は多分上がってきてないかと。もし3歳半健診とかその時点でそういう特性、疑いがありますという情報が上がれば、そこからのベースでスタートできるので、学校側としてもメリットがある。情報を伝えていいのかは議論がありますが、そういう縦の繋がりとかは必要ではないかと。 あと入学後もあるんです、入学してから半年、何ヶ月かしてから幼稚園と保育所先生と小学校の先生たちが、この子どうですかというやり取りもあるんです。ただ、幼稚園、保育所、小学校が連携して、こういうことを身につけてきてほしい、大河原の子供としてこういうところは、というのは一貫性を持って幼児教育からスタートはありなのかなと。小学校入ってきたときの差がすごいんです。
佐柄委員	データ自体はありそうなので、何かそこでうまく連携できる何かあるといいんですけどね。
竹川副会長	その子のデータとして町で保管して繋げていく、成長の記録ではないですけど、そういう形でその子をフォローしていく。そういうシステ

	ムとかがあればいいんですが。
佐柄委員	マイナンバーとかで何か紐付けてとかがあるといいんでしょうけど。
吉野課長	ご意見は事業課に伝えたいと思います。 今日の会議の意見いただいたのは取りまとめて、全ての課にフィードバックするので。あと役場全体の協議の場でもどういった意見があったかということは共有させていただきますので、今のご意見を伝えたいと思います。
竹川副会長	区長さんと民生委員のなり手がなくてどこの区でも困ってる。区長さんがどんどん高齢化して次の人いなくて、いろんな人にはお声掛けしてるみたいですけどいなくて、ある区では何年間も区長さん不在の区もありましたから。区長さんと民生委員さんのなり手、地区活動の担い手不足というのが課題かなと思います。 あとは、他の地区ですけど班長さんやってる方が、うちの班 26 世帯になってひどいと。そこは区長さんに言って半分に分けて、10 何世帯ぐらいずつにしないと班長さん大変じゃないかと話したんですけど、そういう班は何班かあるらしいので、班長さんの負担軽減とか考えると、せめて 10 世帯ぐらいがちょうどいいところかなと思って。20 何世帯のままで放置されている班もあるようで、そこは区のお仕事なんでしょうけどちょっとお耳に入れておいていただいて気にかけていただければなと思います。よろしく願いいたします。 他に皆様から何かありますでしょうか。
佐柄委員	区長さんって報酬はあるんですか。
吉野課長	はい、基本額があって、あとは世帯数とかに応じて報酬が上がってくる形です。ただ、区長さんは充て職が多いんだと思うんです。充て職が多くていろんな会議に出るのが大変なところもあるので、できれば地域の方で役割を分散していただければ成り手ももう少し出てくるのかと思うんですが、区長さんに皆さん安心してお願いしてしまうみたいなんです。
竹山副会長	地区の総会見ると、結構意見言ってる人いて、だったら区長さんやればいいのと思うんですけど、そういう人に限ってやらないと思う。なので私は総会で質問があるときは本当に優しく丁寧にいつもありがとうございますって言葉を添えてから優しく質問するようにはしてるんですけども、会計さんとかにもなる人もいない状態です。 他に皆さんのほうから。
笠松委員	区長さんのなり手いないっていうじゃないですか。うちの町は区長さんいても、地域の人に参加してくれない、私同じ班の人で会ったことない 2 人いるんすよ。2 世帯、町内会にも来ないし、草刈りにも来な

	いので会ったこともない。草刈り不参加の罰金が 1000 円なんですけど払った方がいいって言って参加しない。1000 円でも前より 500 円上げててもそれでも来ない。 あと子供たちのクラスって今何人くらいなんですか。
竹川副会長	ひとクラスまちまちで 30 人前後程度ですけど、最大 35 人です。
笠松委員	うちの小学校は 6 年生一人で去年卒業しました。卒業式を 1 人でやったんですね。これはかわいそうだなと、みんなを集めてちゃんと祝ったんです。だけど 6 年生の卒業旅行を他の小学校の 6 年生と行ってるんですよ。だから人わからなくてつらい。 大河原みたいに多いと、追加の意見も出ますけど、うちみたいな小さいところは今度 4 年後に四つか五つが合併しちゃうんですよ。 あまりにも少なすぎて、うちの娘と息子が 6 年生と 4 年生ですけど 6 年生で 12 人、4 年生 19 人で一番多いんですよ。その他は全部少なくて、もう学校維持できないんですよ。だから他の小学校等と一つになって、新しく小中一貫校作ろうということで今役場が進めているみたいなんですけど、地域によって同じ仙南だけど全然違うなって思っ て。 うちの子供たちは小さいクラスであまりいないんですが、同じうちの町でも別のところの小学校は大きいマンモス校があるんです。あそこの子たちとは考え方や、遊び方が違うんです。なので私が子供に言ったのは、固体、液体、気体、理科で習ったかって。田舎の小学校のお子さんが大都会に行って授業を習ったときの話で、氷は零度で凍る、氷が溶けるのはライターや火で燃やして水になって、その水が蒸発して、また水に戻るその繰り返すときその氷が水になったときなんて言うのかという質問に、みんな融点と答えたんですけど、その田舎から来た子供は何て言ったと思います。氷が水になったとき、その子供は春が来るって言ったんですよ。都会の子は常識がわかるような、当たり前なんですけど、でもその田舎から来た子は、それはもちろんわかってるんだけど冬が来て春が来て春夏秋冬来ると、氷が解ければ春が来るって。なるほどなと、だからそういう感性を忘れないでほしい。 いずれうちの小学校も大河原みたいに大きくなると思うんですけど、何かそういう心を忘れて欲しくない子供たちが増えればいいなと、ちょっと今聞いてて思ったんです。
竹川副会長	ありがとうございます。他にありますか。
佐柄委員	小学校中学校の教員が不足しているとお話ですけど、試しに大河原小学校職員採用とか求人とかで調べてみたんですけど、情報があまりなくて。なので何か町かどこの管轄になるのかわからないんですけど。

竹川副会長	県で登録している方を呼ぶんですけど、講師自体も少なくなっているの。あと意外と教員免許持ってて定年退職されて 60 何歳の先生方とかも、今の現場はもうタブレットだ、IT だって言われると、とてもじゃないけどできないからと尻込みされる。どんどん変わって 1 人タブレット持ってる時代なのでなかなか。あとは講師自体が登録ゼロで、町で講師を募集しても講師の先生見つけるのはすごい大変なんですよ。 町独自の予算とってもらってるんですけど、先生を探すのが大変。先生同士のネットワークで探してもこなかった。
佐柄委員	町で作るのか、小学校で作るのか宮城県で作るのかわからないですけど、教師の採用のサイトとか、何かそういうの作ってみてもいいかもしれない。
佐々木卓実委員	県でも、登録のサイトはあったと思いますが、絶対的に数が足りてないのだと思います。学校の先生たちもですし、町の職員もそうだと思いますが、土木職員なども足りていない状況です。 何故なのかと考え、町でも、県でもいろいろとやってみたりするんですけど本当に人が足りない状況です。 子供たちがすごく難しい状態になってる状況の中で、学校の先生になりたいっていう人たちをどういうモチベーションで増やしていくのかっていうのは、非常に難しい問題かなと。 ただ、先ほどおっしゃられたように、何か引っかかるような発信方法があって、そこで必ず採用されてるところもあると思うのでそういうのを模索していくことが大事なんだろうなと思います。
佐柄委員	ありがとうございました。
我妻委員	学校支援者の募集とか図書司書が不足してるんで募集しますっていう応募よく見かけるので応募しようとする、あなたは免許持ってますかと言われますが、条件付きなんですよ。 あれじゃ募集しても集まらないと言いたい。何のために免許必要なんですか、支援員なんですよ。
竹川副会長	大河原町は教員免許持たなくても支援員はできます。
我妻委員	そうなんですか、いいこと聞きました。
竹川副会長	それでは、ほかに無いようですので、会議の議題について協議を終えたいと思います。ありがとうございました。

9. 意見交換 協議内で多数出たため無し

10. その他 委員報酬等について事務局より説明

1 1. 閉会